アラビア半島の遊牧化
—ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ遺跡群の第5次発掘調査(2019年)—

藤井　純夫　金沢大学国際文化資源学研究センター特任教授
足立　拓朗　金沢大学歴史言語文化学系教授
上杉　彰紀　金沢大学国際文化資源学研究センター特任准教授
小髙　敬寛　金沢大学国際文化資源学研究センター特任准教授

Pastoral Nomadization in the Arabian Peninsula: Fifth Excavation Season at the Wadi Muharrak and Wadi Ghubai Sites, 2019

FUJII, Sumio　Project Professor, Center for Cultural Resource Studies, Kanazawa University
ADACHI, Takuro　Professor, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University
UESUGI, Akinori　Project Associate Professor, Center for Cultural Resource Studies, Kanazawa University
ODAKA, Takahiro　Project Associate Professor, Center for Cultural Resource Studies, Kanazawa University

1. はじめに

アラビア半島北半の遊牧化過程を追跡するジョウフ・タブーク調査計画(JTAP：Jawf/Tabuk Archaeological Project)は、紅海北東岸のワディ・シャルマ地区における4年間の活動を終え(藤井・足立2015；藤井他　2016、2017；Fujii 2018；Fujii, Adachi *et al.* 2018；Fujii, al-Mansoor *et al.* 2018, in print)、2017年から、州都タブークの北約50 kmに位置するグレイヤ平原に調査区を移した(**図1**)。手始めとして、同年3月にはワディ・ムハラック2号遺跡(Wadi Muharrak 2)を、12月には同1号遺跡およびワディ・グバイ5～4号遺跡(Wadi Ghubai 5-4)を、それぞれ発掘した(藤井他2018；Fujii 2016)。いずれも、銅石器時代～前期青銅器時代遊牧民の各種葬祭遺構が混在する複合遺跡である。翌2018年には、3月にワディ・グバイ3～1号遺跡を、12月に同6S、11、13、14N、16号遺跡、および(グレイヤ平原の北東約50 kmに位置する)サフワーン1号遺跡を、発掘した(藤井・足立2019)。その多くは銅石器時代～前期青銅器時代の葬祭遺跡であったが、11、13遺跡には後期新石器時代の擬集落2件が含まれていた。本年12月の調査では、ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ両遺跡群に関するこれまでの調査データを総点検すると共に、新たに発見された14S、17、18、19号遺跡を追加発掘した。併せて、これら葬祭遺跡群を営んだ先史遊牧民の生活圏と考えられる隣接ワディの踏査も実施した。以下、順に紹介する。

図1　ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ遺跡群の分布

図2　ワディ・グバイ 14S 号遺跡：9060 号エンクロージャー西壁面（東から）

図4　ワディ・グバイ 17 号遺跡：9024 号ネコ科動物捕獲罠（南東から）

2. ワディ・グバイ 14S 号遺跡（銅石器時代）

昨年調査した 14N 号遺跡が立地する丘陵の南側緩斜面に位置し、初期型エンクロージャー 6 基から成る小型遺跡。9060 号遺構では、初期型エンクロージャーに特有の、西壁ニッチや斜め積み壁面が確認された（**図 2**）。

3. ワディ・グバイ 17 号遺跡（銅石器～前期青銅器時代）

12 号遺跡南側砂岩丘陵の頂上部平坦面に位置する大型遺跡。エンクロージャー 1 基、円塔墓・方塔墓 15 基、プラットフォーム 13 基、その他遺構 1 基から成る。このうち、方塔墓 1 基とその他遺構 1 基を発掘した。その結果、前者（9041 号遺構）は方形遺構に曲線的な両翼を加えた特異な型式で、エンクロージャーとプラットフォームの中間形態と考えられることが判

図3　ワディ・グバイ 17 号遺跡：9041 号方塔墓（南から）

明した（**図 3**）。類例は、ムハラック 2 号遺跡（3078 号遺構）でも確認されている。

一方、その他に分類された 9024 号遺構は、イスラエル南部のネゲブ高原に類例のある大型ネコ科動物の捕獲罠（Panther trap）であることが判明した（**図 4、5**）。この遺構は、立石と蓋石で囲ったトンネル状の細長い空間（長さ約 1.5～2 m × 幅約 0.2 m）を屑石で覆って目立たなくし、その片側短辺にのみ狭い入り口を設けているのが特徴である。これは、トンネルの奥に置かれた餌に惹かれてヒョウやチーターなどが這い入ってしまうと、狭い間口と低い天井高に阻まれて後ろずさりできなくなることを利用した、簡単ながらも効率的な捕獲（生け捕り？）装置である。本遺構は周囲の前期青銅器時代遺構とほぼ同じ層位に位置しており、従って相当古いと想定されるが、残念ながら、年代を特定するための遺物や C-14 資料などは得られなかった。なお、同種の遺構は、同じ丘陵の北側に連なる 12 号遺跡でも、4 基確認された（8042、9054、9055、9088 号遺構）。遺構の OSL 年代測定と、周辺ワディで確認された岩絵ネコ科動物との対応関係が、今後の課題である。

4. ワディ・グバイ 18 号遺跡（前期青銅器時代）

ワディ・グバイの最上流地点から延びる細長い砂岩丘陵の上端部に位置する大型の祭祀遺跡で、円塔墓 11 基、プラットフォーム 9 基、その他遺構 1 基から成る。円塔墓 4 基とプラットフォーム 1 基、その他遺構 1 基を発掘した。発掘した円塔墓は総じて大型で、直径約 6.4 m × 保存高約 1.9 m の事例（9011 号遺構）を含む。アクセスが悪いために逆に保存状態が良く、中には天井の持ち送り構造をほぼ原型のまま保った事例

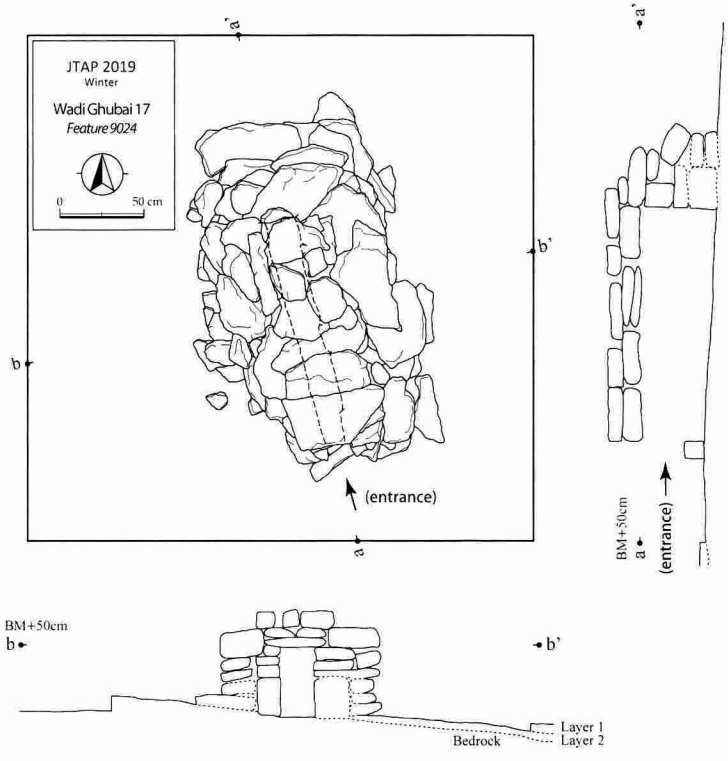

図5　ワディ・グバイ17号遺跡：9024号ネコ科動物捕獲罠

も認められた(**図6**)。ただし、完全な持ち送りは稀で、最上段の大型蓋石だけは積み重ね式の石柱に渡しかけている事例が多かった。なお、9013号プラットフォームは、立石付きのニッチを中央に組み込んだ標準的な事例であった。その他遺構1基(9085遺構)は、全長約3.1mの単純な石列であったが、隣接する9021号円塔墓との関係は不明である。

5. ワディ・グバイ19号遺跡（銅石器～前期青銅器時代）

ワディ・グバイ流域の東数キロに位置する低い台地上の遺跡で、エンクロージャー4基、円塔墓6基、プラットフォーム9基、その他1基から成る。うちエンクロージャー1基とプラットフォーム1基を発掘し、前者(9073号遺構)は外付け型のニッチを持つ特異な事例であること(**図7**)、後者(9080号遺構)は計3本の立石を内蔵する壁面短縮型の事例で、半円形のプランを持つことを(**図8**)、それぞれ確認した。一方、その他遺構1基(9071号遺構)は、直径約1mの小型集石を南北に連ねた全長約77mのテール(tail)と判明した。

6. ワディ底踏査

18／17／12号遺跡の位置する砂岩丘陵を東西に挟むワディ・グバイ上流の2本の支流、ワディ・アブ・トゥバイク(Wadi Abu Tbaiq)とワディ・アブ・ブライガ(Wadi Abu Bregha)を踏査し、各種岩絵の点在を確認した。それらは風化の程度から、新石器時代ジュッバ様式の人物・動物像(**図9**)、これに続く中間的な事例(**図10**)、長槍・騎馬の人物像を含む第3の事例(おそらく鉄器時代以降)、その他、に分類される。このうち中間的な事例は、その相対年代から考えて、隣接の葬祭遺跡群と関連する可能性がある。この他、サムード文字、アラビア文字などの碑文も、数件発見された(**図11**)。その一方では、比較的豊かな植生と、これに依拠するラクダ遊牧民の存在も確認された。銅石器時代～前期青銅器時代遊牧民の生活域も、このワ

図6　ワディ・グバイ18号遺跡：9021号円塔墓(南東から)

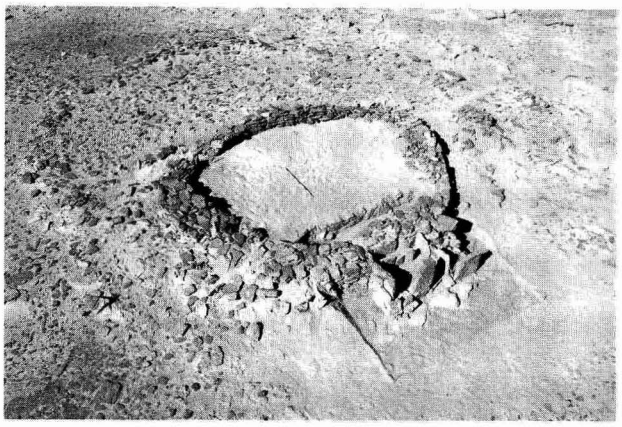

図7 ワディ・グバイ19号遺跡：9073号エンクロージャー（南東から）

図8 ワディ・グバイ19号遺跡：9080号短縮型プラットフォーム（南西から）

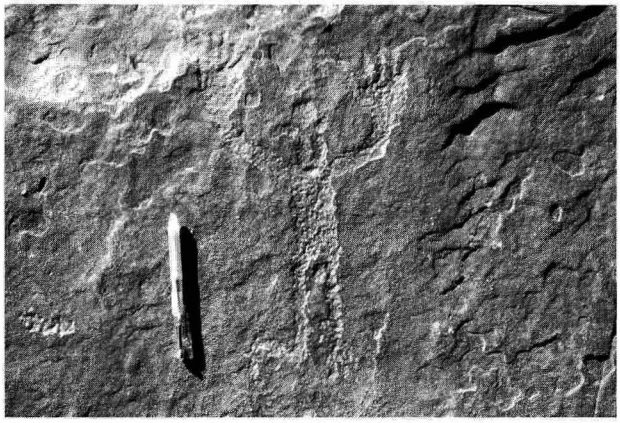

図9 ワディ・アブ・トゥバイク：岩絵（ジュッバ様式）

図10 ワディ・アブ・トゥバイク：岩絵（中間様式）

図11 ワディ・アブ・トゥバイク：サムード文字碑文

ディ底にあったと考えられる。だとすれば、生活域に隣接しながらも植生の乏しい周辺丘陵が葬祭域に当てられたことになるのであろう。両者の相関は、今後の重要課題である。

7. まとめ

今季調査の成果は、1)既存データの総点検と新規データの大幅な追加によって、調査域における銅石器～前期青銅器時代葬制・墓制の全体像を把握できたこと、2)ワディ底の踏査によって、生活圏と丘陵葬祭圏との相関という新たな視点を得たこと、である。なお、円塔墓内部の持ち送り構造について詳細な知見を得たこと、大型ネコ科動物の捕獲罠という興味深い資料を見出したことも、重要な成果である。

ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ両遺跡群の調査は、昨年の第4次調査をもって一段落したはずであったが、今季の最終確認調査で新たな課題が出来てしまった。中でも、ワディ底生活圏と丘陵葬祭圏との相関は、重要である。2020年3月に予定している第6次調査の前半で、この問題に取り組みたい。

■参考文献

・藤井純夫・足立拓朗　2019「アラビア半島の遊牧化：ワディ・グバイ遺跡群の第3～4次発掘調査（2018年）」『第26回西アジア発掘調査報告会報告集』66-70頁　日本西アジア考古学会。

・藤井純夫・足立拓朗・長屋憲慶　2018「アラビア半島の遊牧化：ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ遺跡群の第1次、2

次発掘調査(2017年)」『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』122-127頁　日本西アジア考古学会。
・藤井純夫・足立拓朗・長屋憲慶　2017「アラビア半島の遊牧化：ワディ・シャルマ地区円塔墓遺跡群の分布・発掘調査(2016年)」『第24回西アジア発掘調査報告会報告集』142-147頁　日本西アジア考古学会。
・藤井純夫・足立拓朗・長屋憲慶　2016「アラビア半島の遊牧化過程：ワディ・シャルマ1号遺跡の第4次発掘調査(2015)」『第23回西アジア発掘調査報告会報告集』108-113頁　日本西アジア考古学会。
・藤井純夫・足立拓朗　2015「アラビア半島の遊牧化過程：ワディ・シャルマ1号遺跡の第2次・第3次発掘調査(2014)」『第22回西アジア発掘調査報告会報告集』54-59頁　日本西アジア考古学会。
・Fujii, S. 2018 Bridging the enclosure and the tower tomb: New insight from the Wadi Sharma Sites, NW Arabia. *Proceedings of Seminar for Arabian Studies* 48: 83-98.
・Fujii, S. 2016 Wadi Ghubai and Wadi Mohorak Sites: Protohistoric burial fields in the Tabuk Province, northwestern Arabia. In M. Luciani (ed.), *The Archaeology of North Arabia: Oases and Landscapes*, 111-131. OREA Series 4. Vienna: Austrian Academy of Sciences.
・Fujii, S. 2016 Slab-lined feline representations: New finding at 'Awja 1, a Late Neolithic open-air sanctuary in southernmost Jordan. In R. S. Stucky, O. Kaelin, and H.-P. Mathys (eds.), *Proceedings of the 9th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, vol. 3, 549-559. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
・Fujii, S. 2013 Chronology of the Jafr prehistory and protohistory: A key to the process of pastoral nomadization in the southern Levant. *Syria* 90: 49-125.
・Fujii, S., T. Adachi, A. A. al-Mansoor, R. al-Jhani and A. al-Muwaykel 2018 Jawf/Tabuk archaeological project, 2012-2013: Preliminary report of the Saudi-Japan joint surveys in the Tabuk Province. *Atlal - Journal of Saudi Arabian Archaeology* 25: 181-189.
・Fujii, S., A. A. al-Mansoor, T. Adachi, K. A. al-Khalifa, K. Nagaya and A. S. al-Anazi 2018 A preliminary excavation report of Wadi Sharma 1, a Neolithic settlement in the Tabuk Province (2012-2012). *Atlal - Journal of Saudi Arabian Archaeology* 26: 116-124.
・Fujii, S., A. A. al-Mansoor, T. Adachi, K. A. al-Khalifa and K. Nagaya (in print) Excavations at Wadi Sharma 1: New Insights into the Hejaz Neolithic, Northwestern Arabia. In M. Luciani (ed.), *The Archaeology of the Arabian Peninsula: Connecting the Evidence*. OREA Series Vienna: Austrian Academy of Sciences.